

独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業

SEED きょうとのあゆみ

～地域での摂食障害者・家族支援をめざして～



非営利団体 SEED きょうと

目次

1 「SEED きょうと」とは

1.1 設立主旨と事業の背景

1.2 組織概要

1.3 活動の計画

2 事業内容・事業実績

2.1 定例会議および総会

2.2 きょうと摂食障害家族教室

2.3 講演会及びシンポジウム

2.4 当事者の会の活動

3 事業運営

3.1 資金の確保

3.2 スタッフの確保

3.3 情報伝達・共有

3.4 広報活動

4 今後の課題と計画

※ 添付資料：新聞記事、チラシ、Leaf of SEED 等

1 「SEED きょうと」とは

1.1 設立主旨と事業の背景

【設立主旨】

他の先進諸国と同様に、近年日本においても拒食症や過食症が増加しています。摂食障害は思春期から青年期にかけての若年女性が比較的高率に罹患し、かつ非常に高い死亡率であるにもかかわらず社会問題としての認識は依然として低く、その対策は不十分なままです。摂食障害の病因や病態は複雑で、治療開始から回復・社会復帰に至るまでに、生物・心理・社会といった多方面からのアプローチが必要です。現在の日本の医療において、摂食障害に対する十分な診療システムは構築されていませんが、今後も全てを医療のみで扱っていくことは有効ではありません。

自助グループや家族会は各地で組織されていますが、摂食障害の専門的な知識を持つスタッフがいない形での運営は、疾患の特性もありその方針や組織自体が不安定となりやすく、継続して機能していくことが困難です。社会復帰に向けて当事者が継続的に利用でき、摂食障害の専門家がリードする形で明確な方向性をもった施設を設立することは、医療者・当事者・家族それぞれから望まれています。他の精神障害者通所施設とは利用者の疾患特性の違いからその併用が難しく、摂食障害を専門的に扱う支援施設の設立が必要と考えられますが、関西にはそのような施設は存在しません。

今回、私たちは上記のようなニーズを受け、平成 23 年に京都で摂食障害者を支援する NPO「SEED きょうと」を立ち上げました。平成 25 年には、WAM（独立行政法人福祉医療機構）の助成を受けて当事者の利用できる施設「SEED テラス」を開設し、支援活動を拡大しています。今後も「SEED きょうと」は、法人化、行政の認可施設を目指して団体組織や運営方法を整備し、摂食障害当事者および家族にとってふさわしい活動を展開していく方針です。

理事長 京都大学医学部附属病院精神科神経科 野間俊一

【事業の背景】

当団体は前述の設立主旨にあるように、京都での摂食障害者およびその家族を支援する目的で設立されました。団体のスタッフは、京都で日々摂食障害診療に携わる医療福祉関係者で構成されています。さらにそのスタッフは、京都大学、京都府立医科大学の附属病院を中心に、京都府および京都市の公的機関、クリニック、精神科病院と多施設・多職種で構成されています。

このように多施設・多職種にわたる摂食障害の支援活動を行う組織は、全国的にみてもほとんどありません。これは各施設に所属する熱意あるスタッフが、個別の施設もしくは個別の職種だけでは十分な支援が行えないことを認識し、施設や職種の垣根を越えて協力することを目指した結果と言えます。実際、摂食障害は拒食のために著しい低体重となり、内科的な身体管理を要する状態に陥るケース、ある程度低体重は回復したものの、食行動の改善のために入院治療が必要なケース、入院治療は要さないものの、外来での注意深い経過観察と精神療法が必要になるケース、社会復帰を目指してデイ・ケアや作業所を利用しながらリハビリテーションを行うことが必要なケース等、個々のケースや治療の進展度合いによって、必要となる医療社会資源が刻一刻と変遷します。これらを一つの施設で完結しようとすることは現実的ではなく、地域での連携が必須となってきます。さらにその連携は、摂食障害者の繊細な感受性と複雑な病理に対応できるよう、非常に緊密で一貫したものである必要があります。

しかしながら、摂食障害に対する理解と治療連携については、まだ十分に知れ渡っているとは言えず、専門医のいる数少ない医療機関に患者が集中し、その専門医の所属する施設が疲弊し、十分な治療が行えなくなるという悪循環が続いています。SEED きょうとは、京都においても例外でないこのような状況を打破するため、敢えて多施設で連携して当事者・家族支援を行い、様々な活動を多職種で協働して開始しました。

【本冊子の目的】

本冊子は、現在の SEED きょうとの活動について紹介する他、他の地域でも同様の摂食障害者支援を導入するための手引書としても作成しています。これまでの SEED きょうとの設立活動と事業展開は、他地域での活動の参考になると考えています。本冊子を参考にされ、現在明らかに不足している摂食障害者の支援体制が、少しでも広がっていくことをスタッフ一同切望しています。本冊子が一助となれば幸いです。

1.2 組織概要

【会員（五十音順）】

飯田 直子	京都府立医科大学附属病院・精神科医
池上明希	京都府立医科大学附属病院・精神保健福祉士（理事）
岩崎明日香	京都府立洛南病院・精神科医
江城 望	京都大学教育学研究科・臨床心理士
香月 晶	京都市こころの健康増進センター・精神科医
熊取谷 晶	京都府精神保健福祉総合センター・精神保健福祉士（理事）
工藤 悠世	安東医院・臨床心理士（運営委員）
酒井 奈津季	京都大学医学部附属病院・精神保健福祉士（運営委員）
清水 美帆	京都府宇治児童相談所・臨床心理士
高尾 龍雄	京都大学医学部附属病院・小児科医
橘 亜紀	京都府立医科大学附属病院・臨床心理士
崔 炯仁	いわくら病院・精神科医（監事）
中田 亮太	京都府乙訓保健所・精神保健福祉士
長澤 伸恵	作業療法士
牧 千里	京都府山城南保健所・精神保健福祉相談員
永原 優理	京都府立医科大学附属病院・精神科医
野間 俊一	京都大学医学部附属病院・精神科医（理事長）
水原 祐起	京都府精神保健福祉総合センター・精神科医（理事）
守時 通演	第二北山病院・精神科医
和田 良久	京都府立医科大学附属病院・精神科医（副理事長）

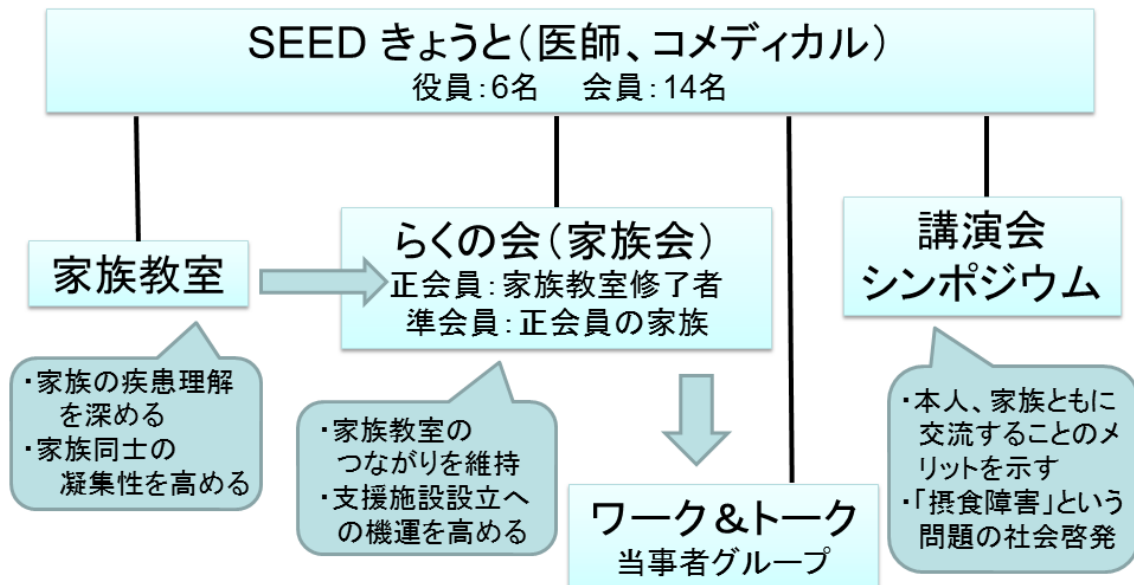


上記、医療福祉関係の有資格者で構成される会員以外にも、様々な技能を有したボランティアスタッフ11名および活動に賛同し経済的な支援を行っている賛助会員を有しています。

また今後のNPO法人化を考慮し、申請に対応しうる会則（定款）を定めて、それに則った運営を行っています。

1.3 活動の計画

現在の組織図



「SEED きょうと」では現在、大きく4つの活動を行っています。平成25年度までに「きょうと摂食障害家族教室」「らくの会(家族会)」「講演会・シンポジウム」を上図のように連携しながら行ってきました。そして平成25年度から、新たに最終的な目的である当事者の会の活動を、「ワーク&トーク」という名称で、活動拠点「SEED テラス」にて開始したところです。

「らくの会(家族会)」については、平成25年度まではSEED きょうとの下部組織でしたが、以前より会計上は別組織となっていました。平成26年度からは会則や議決においてもSEED きょうとから独立した組織となります。しかし今後もSEED きょうとの活動と連携していく予定です。

2 事業内容・事業実績

【事業実績】

平成 19 年 11 月	講演会「拒食・過食を乗り越えて」(第 1 回) (運営：有志、講師：「ミモザ」(横浜市) メンバー・スタッフ、 以後毎年秋に開催)
平成 22 年 10 月	団体設立の準備会議
平成 23 年 3 月	「京都摂食障害者支援施設設立準備委員会」を設立 (SEED きょうとの前身組織)
6 月	「きょうと摂食障害家族教室」第 1 クール開始
11 月	「拒食・過食を乗り越えて Part4」
平成 24 年 1 月	家族会活動開始 家族教室・第 2 クール開始
3 月	団体名を「SEED (シード) きょうと」に改名 家族会「らくの会」発足
7 月	家族教室・第 3 クール開始
8 月	施設設立ミーティング開始 (参加者：当事者、家族、スタッフ、平成 25 年 3 月終了)
11 月	「拒食・過食を乗り越えて Part5」
平成 25 年 2 月	家族向け講演会
4 月	「ワーク」「トーク」開始 家族教室・第 4 クール開始
6 月	地域医療福祉関係者向け講演会
8 月	「SEED テラス」開所
10 月	家族教室・第 5 クール開始
11 月	「拒食・過食を乗り越えて Part6」
平成 26 年 3 月	「らくの会」独立 NPO 法人化に向けた会則(定款)の議決

2.1 定例会議および総会

【定例会議】

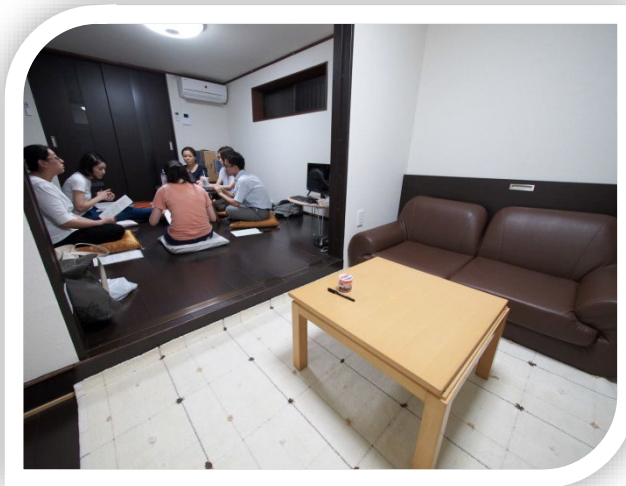
SEED きょうと運営における重要な事項を決定するために年 4 回開催される、会則で定められた公式の会議です。定例会議では、各種活動の役割分担、活動内容の決定、講演会やシンポジウム開催についての検討、ボランティアスタッフへの仕事の割り振り、活動資金確保の方針、新規事業の発案、担当者間の情報共有などを行っています。会議の議事録を作成し、メーリングリスト等で配布することで、欠席した会員にも情報が共有できるように運営しています。

【総会】

SEED きょうとの最高議決機関であり、通常年 1 回年度末に開催されます。総会では会則の変更、解散や合併の議決、事業計画並びに活動予算の議決、事業報告および活動決算等の最重要事項を決定します。当初は SEED きょうとの下部組織であった「らくの会（家族会）」の正会員も議決権を有していましたが、平成 25 年度の総会にてらくの会が完全に独立したことから、現在は SEED きょうとの会員のみが議決権を有しています。

【当事者の会運営ミーティング】

平成 25 年度の下半期は、WAM の助成を受けられたことにより、SEED テラスを開所することができました。テラスを十分活用し、当事者の会の活動を活発にしていくために、



テラスの環境を整備したり、活動についての取りまとめを行っていく必要がでてきました。そこで、8 月から月 1 回の頻度で「当事者の会運営ミーティング」を開始し、運営についてのアイデアを出し合ったり、スタッフ同士の情報共有を行ったりして、連携を深めてきました。今後の方針や細かな運営内容について、役職に関係なく忌憚のない意見を出し合ってよりよい方法を検討する場となっています。

2.2 きょうと摂食障害家族教室

【概要】

SEED きょうと発足当初より継続して行っている、組織の基盤を形作った活動です。摂食障害は家族にかかる負担が非常に大きい場合が多く、また家族のケアスキルの水準は、当事者の回復を大きく左右します。きょうと摂食障害家族教室では、当事者に最も長く、深く関わる家族が、疾患を正しく理解し、効果的なサポートを行えるように疾患心理教育を行っています。家族教室は計 5 回を 1 期とし、半年毎に参加者を事前に募集しています。

- ・ 対象：摂食障害の治療のため定期的に通院している患者の家族で、教室への参加希望があり、主治医より家族教室への参加にあたって意見書を送付頂いた方。
- ・ 日時：毎月第 3 土曜日の 13：30～16：00
- ・ 場所：京都市男女共同参画センター（ウィングス京都）
- ・ 1 期の参加者は約 20 名程度
- ・ 参加費は 1 期 5,000 円

【1 回の構成】

- ・ 前半にスタッフによる疾患心理教育が 60 分
 - 「摂食障害とは」「摂食障害とからだ」「摂食障害と家族との関係」「コミュニケーションスキルと対人関係」「摂食障害の問題行動に取り組む」
 - 「摂食障害とは」というテーマで病気自体の理解を深め、「摂食障害とからだ」というテーマで身体症状について詳しく学びます。「摂食障害と家族の関係」、「コミュニケーションスキルと対人関係」というテーマでは家族関係を客観的にとらえた上で、実際にはどのようにコミュニケーションをとったらよいのかを考えます。「摂食障害の問題行動に取り組む」では、より具体的に症状への対応法について取り上げていきます。
- ・ 後半に家族同士の交流会を 60 分
 - 当事者の年代もしくは症状別にグループ分けを行い、1 グループ 6 名程度とし、スタッフ 1 名がファシリテーターとして参加
 - 参加家族は小グループに分かれた後、講義をふまえて家族自身の体験を話し合い、当事者のケアにおいて上手くいった経験、失敗した経験を共有します。多くの家族は摂食障害についてこのようにオープンに話し合える環境がなく、孤立して悩み続けています。交流会は講義にもまして、家族にとっての貴重な場となっています。

【家族教室アンケート結果】

家族教室はWAMでの助成を受けた第5期を含め、第1期から第5期までの全ての会において、参加者にアンケートを実施しました。アンケートは5段階のリッカート尺度を用いて、主に下記の項目について回答を得ました。

- ・ 講義の内容： わかりにくかった 1 ----- わかりやすかった 5
- ・ 講義の内容： 興味がなかった 1 ----- 知りたい内容だった 5
- ・ 講義の時間： 短かった 1 ----- 長かった 5
- ・ 交流会の内容： わかりにくかった 1 ----- わかりやすかった 5
- ・ 交流会の内容： 興味がなかった 1 ----- 知りたい内容だった 5
- ・ 交流会の時間： 短かった 1 ----- 長かった 5

第5期について平均すると講義のわかりやすさ(4.37)、講義が知りたかった内容か(4.39)、交流会のわかりやすさ(4.21)、交流会が知りたかった内容化(4.23)となっており、講義・交流会とも高い評価を得られました。むしろ講義と交流会の時間については、講義(2.75)、交流会(2.45)と、やや短いと感じている参加者が多いという結果が出ています。

今後の課題ですが、より詳しい内容の講義を聴きたい、より十分な時間をかけて交流会を行いたい、個別相談に乗ってほしいといったニーズがアンケートの回答で確認できたため、こういった形で対応していくか検討していく予定です。

各期の最終回には、家族が教室に参加したことによる当事者や参加家族自身の変化についても、アンケートで評価してもらっています。以下の評価項目について、「かなり悪化した 1 --- かなり改善した 5」で回答してもらいました。第5期での平均は、本人の拒食の症状(3.5)、本人の過食の症状(3.38)、本人の嘔吐や下剤乱用(3.14)、本人のその他食行動(3.5)、本人の不安やいらいら(3.67)、本人の家族関係(3.54)、家族の不安やいらいら(3.92)、家族の家族関係(3.77)と、いずれも3ポイントを上回り、改善傾向にあることが示されています。

家族教室には、家族が疾患理解を深め、ケアスキルを向上させるという直接的な効果があります。しかしそれだけではなく、当事者にとっては、自分の家族が自分のために、家族教室に参加して学んでいると言うメッセージとして受け取られるため、そのことも家族関係の改善に寄与していると言えます。実際にそのような回答がアンケートにも寄せられていました。



【らくの会（家族会）】

らくの会は「きょうと摂食障害家族教室」を卒業した摂食障害者の家族による家族会です。平成 24 年 4 月に発足し、当初は SEED きょうと組織の一部でしたが、平成 26 年 4 月からは独立した組織となります。摂食障害は慢性的に経過することが多いため、家族の負担は非常に大きいものです。らくの会では、家族教室の交流会と同様、ご家族同士が交流し、当事者の症状や効果的なケアの方法など、他では話す機会がないことを話し合うことができます。この他にも、SEED きょうとから提供される教材を用いて、より実践的なケア技術の習得を図る勉強会も行っています。家族自身の不安を和らげることができると、当事者に対してもより良い支援を続けていくことができます。

入会に当たっては、SEED きょうとが実施している「きょうと摂食障害家族教室」を修了していることが条件となっています。出来るだけ多くの家族に、このような場を提供していくことが望ましいのですが、家族会を安定して運営していくためには、摂食障害についての理解や対応の仕方について、一定の共有認識が必要と考えています。そのため、家族教室の終了を入会条件として定めています。

平成 25 年度の会員数は 23 名で、ほとんどが当事者（拒食症、過食症）の母親です。月に 1 回の頻度で、定例会議と交流会を同日に行っています。SEED きょうとの家族会担当スタッフと、らくの会の世話人の方が中心となって運営しており、年度ごとに家族会の会員の中から、代表・副代表・会計・書記・名簿係等の役員を選出し、協力して会の運営事務を行っています。平成 26 年度からは、定例会議、交流会と別に、家族だけの茶話会企画なども始める予定です。また、SEED きょうとから独立した組織となった後も SEED きょうとと連携し、支援施設の運営や当事者活動を支援していく予定です。

2.3 講演会及びシンポジウム

【概要】

SEED きょうとでは、当事者・家族への支援だけではなく、一般市民向けの講演や医療福祉関係者向けの講演会も行っています。地域で摂食障害者を支えていくためには、できるだけ多くの関係者や一般市民に摂食障害についての理解を深めてもらい、より幅広い支援体制を整えていくことが必要であると考えています。こうした理念のもとに、下記のような講演会・シンポジウムを定期的に開催しています。

【拒食・過食を乗り越えて（講演会・シンポジウム）】

当初は「ミモザ」のスタッフ・当事者を招き、「摂食障害者と医師のトークディスカッション」をテーマとして SEED きょうと発足前から年に 1 回の頻度で、3 回開催していました。第 4 回目より SEED きょうと主催で開催しています。当事者、家族、医療関係者および一般市民、誰でも参加可能なシンポジウムで、摂食障害に対する社会啓発を行うとともに、支援施設設立のためのボランティアスタッフの募集や寄付を募るといった活動を行っています。平成 25 年度は下記のような日程で第 6 回目を開催しました。



- ・ 名称： 「過食・拒食を乗り越えて Part 6 ～当事者にできること～」
- ・ 開催日： 11 月 4 日（土・祝） 10:00～16:15
- ・ 場所： 男女共同参画センター（ウイングス京都） イベントホール
- ・ 講師： 中村このゆ 氏（追手門学院大学心理学部教授）
村上いづ実 氏（NPO 法人あかりプロジェクト 代表理事）



113 名の参加者に対してアンケートを実施し、約 90 名から回答を得られました。うち、講演会全体に対する評価については 78 名から有効な回答が得られ、「とても参考になった」が 38 名、「参考になった」が 39 名、「あまり参考にならなかった」が 1 名と、参加者からは内容について高い評価を得られています。特に回復した当事者の講演部分については 88 名から回答があり、うち 58 名が「とても参考になった」と評価しており、摂食障害についての情報が乏しい中で、十分な啓発活動になったと考えています。

【医療・福祉・教育関係者向け講演会】

前述の「拒食・過食を乗り越えて」の他に、参加者を教育・福祉・医療関係者に絞り、より専門的な知識や技術の普及を図るための講演会を開催しています。教育・福祉・医療関係者は、十分な知識のないままに摂食障害への対応を迫られることが多いです。そのような対象者から対応方法を学びたいというニーズに答えること、さらには講演を通じて、学校における疾患の早期発見や、教育と福祉、福祉と医療の効果的なネットワーク形成することを視野に入れた活動を行っています。平成25年度は下記の講演会を開催しました。

- ・ 名称： 「地域で生活を支える人のための摂食障害者支援研修会」
- ・ 開催日： 平成25年6月29日（土） 13:30～16:00
- ・ 場所： 男女共同参画センター（ウィングス京都） ビデオシアター
- ・ 講演内容：
 - 摂食障害を正しく理解する （講師：水原祐起 SEED きょうと会員）
 - 摂食障害の社会支援 （講師：池上明希 SEED きょうと会員）
 - 摂食障害者を支援する工夫 （講師：野間俊一 SEED きょうと会員）

参加者は計17名で看護師が6名、精神保健福祉士が3名、臨床心理士・作業所指導員・学校相談員が各2名、保健師・ヘルパーが各1名と、予定していた職種に対して講演を実施することができました。参加者全員にアンケートを実施したところ、5段階で最高評価の「とてもためになった」が14名、次の評価の「ややためになった」3名で、非常に高い評価を得ることができました。

自由記述のアンケートでは、実際に摂食障害のケースもしくは摂食障害に他の精神疾患を合併しているケースの支援をしているが、摂食障害者支援についての情報が非常に乏しくてどのように対応したらいいかわからないという意見が多くあり、このような講演会のニーズが高いことがうかがわれました。また、今後は具体的なケースについてのカンファ

レンスを希望する意見が多く、次回の開催にあたっては検討していきたいと考えています。

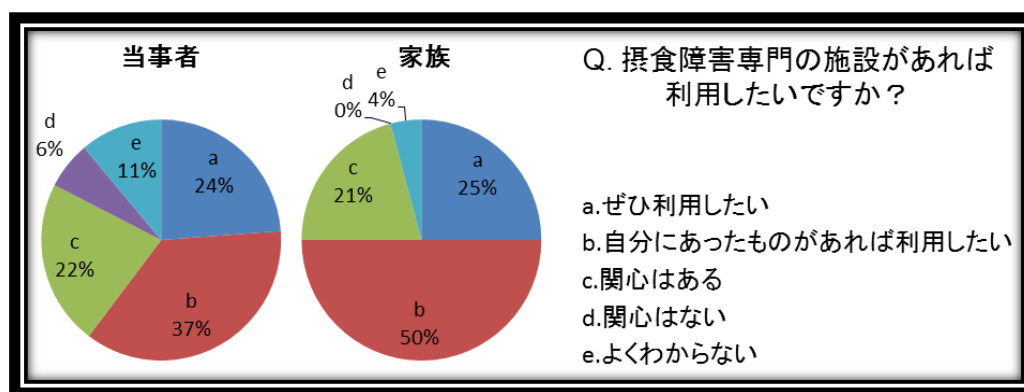
なお、この講演会についてはWAMの助成により開催しており、年2回を予定していましたが、次項目の当事者活動の展開に人員を充てる必要があったため、今年度については2回目を開催することができませんでした。



2.4 当事者の会の活動

【概要】

SEED きょうとが最も重要な目標としてきた活動です。社会復帰に向けて当事者が継続的に利用でき、摂食障害の専門家がリードする形で明確な方向性をもった施設を設立することは、医療者・当事者・家族それぞれから望まれています。京都大学医学部附属病院に通院中の摂食障害患者とその家族を対象として、野間らが行ったアンケート調査を行った結果、当事者の65%、家族の75%が「ぜひ利用したい」または「自分にあったものがあれば利用したい」と回答しています。



既存の精神障害者通所施設の適応は、摂食障害者の繊細な感受性と病理の複雑さから通所を継続することが難しくなることが多く、SEED きょうとは摂食障害を専門的に扱う支援施設の設立が必要と考えています。このような理念の下、平成25年度にWAMの助成を受けることで、活動の拠点となる「SEED テラス」を京都駅近くに賃借・開設することができました。それにより平成25年度上半期までは、ウィングス京都で毎回部屋を借りて行っていた当事者活動「ワーク」「トーク」を、SEED テラスの落ち着いた環境のもとで継続することができました。「ワーク」「トーク」は当事者同士が交流できる居場所を確保と、互いに支え合いながら疾患理解を深め、社会復帰への動機を維持し、復帰への足掛かりとなるスキル高めるための、SEED きょうとの中心となる活動と位置付けています。

【ワーク】

作業を通して安心できる居場所を提供する「ワーク」は、平成25年末までは月に1回の開催でしたが、平成26年1月から平日も含めて週に1、2回の頻度で開催されるようになりました。毎回、当事者の方とスタッフが数名ずつ参加しています。活動の中身は、キャンドル作り、ビーズ細工、革細工、まくらめ（紐類を結びながらレース状にする手芸）などで、参加者の方にはその日の調子に応じて、自分のペースで進めていただけるようにな

っています。SEED テラスも作業や休憩のための環境が整い、開所直後よりもさらに過ごしやすくなってきています。

平成 26 年度中には、ワークで作ったものを販売することを目指しており、まずはアロマキャンドルの製品化に向けて、色や香り、良い品質のものを作るための手順等を試行錯誤しています。商品化に向けての作業マニュアルを作成中です。

今後も、当事者がつらい時も何とか過ごしていくための居場所という面と、何かを作って形にするというやりがいの面、両方を大切にワークを充実させていく予定です。



【トーク】

「トーク」は専門家同席のもと、当事者が集まって意見交換を行い、話し合いを通じて疾患理解を深め、回復への動機を維持する活動です。



日常生活で気になっていることなどを摂食障害の当事者同士が話し合うことで、お互いに生活や治療に向けての元気や意欲を与えあうことを目指しています。

平成 25 年 4 月より開所となり、毎月第 2 土曜日の夕方に開かれていましたが、平成 26 年 1 月からは、月に 2 回、金曜日のお昼にも開かれることとなり、現在は月に 3 回「トーク」が開かれています。金曜の「トーク」のうち、1 回は過食の方限定となっています。毎回、2～5 名の当事者の方が参加されています。スタッフも 1～2 名参加し司会を担当しますが、ほぼ当事者の方同士で意見が交わされています。当事者の方の参加がお一人の時は、これまでの振り返りを行うこともあります。

「トーク」を支障なく行うために、“参加基準”（精神状態・健康状態が、ある程度安定し

ていること、BMI>15kg/m²）、“約束事”（無理のない参加、他の方の意見は最後まで聞く、個人の批判は避ける等）、“秘密厳守”の確認を行い、安心して参加していただき、大事な時間としていただくよう心がけています。

当事者の方からは「日々の生活の中では、表出する場が無く、どうしてよいか分からないことや、解決の糸口が見つからないようなことも、この場では話すことが出来る、相談が出来る」との感想が述べられています。今後も、時間や内容について、当事者の方と検討を重ね、よりニーズにあったものにしていきたいと考えています。

【SEED テラス】

平成 25 年度に WAM の助成を得ることができ、京都駅から徒歩 10 分程度の好立地に、活動の拠点となる「SEED テラス」を開所することができました。2 階建ての一軒家で、1 階は主に「ワーク」での作業を行ったり、事務作業を行ったりするスペースとして、2 階は落ち着いた雰囲気の中、「トーク」を行ったり、参加者が休養できるスペースとして使用しています。名前の由来となったテラスもあります。



【主治医からのアンケート結果】

当事者の会活動に参加している当事者の主治医から、その有効性についてのアンケート調査を下記の内容で実施しました。現在は利用者の主治医を SEED きょうとのスタッフに限定しているため、2 名的主治医より下記の回答を得ました。

ワーク・トーク全般について	主治医 A の評価	主治医 B の評価
・食事が改善したか	変化なし	少し改善した
・不安が軽くなったか	少し軽くなった	軽くなった
・社会に出る機会が増えたか	変化なし	少し増えた
・当事者にプラスになっているか	なっている	なっている
ワークについて		
・居場所になっているか	なっている	少しなっている
・生活の役に立ちそうか	少し役に立ちそう	役に立ちそう
トークについて		
・回復のヒントを得られているか	少し得られた	少し得られた

2 名とも、活動については著明な効果とまでは言えないものの、否定的な評価はなく、5 段階で概ね 3～4 と評価しています。

【本人からのアンケート調査】

当事者から下記の項目についてアンケートを行った。

(質問)

質問 P 活動（ワーク、トーク）に参加したことのある人にお尋ねします。

P-① 活動に参加して、食事が改善しましたか。

P-② 活動に参加して、不安が軽くなりましたか。

P-③ 活動に参加して、社会に出る機会が増えましたか（例：アルバイトを始めた）。

質問 Q ワークに参加したことのある人にお尋ねします。

Q-① ワークに参加しているとき、SEED テラスは居場所になっていますか。

Q-② ワークでの活動は、今後の生活の役に立ちそうですか。

質問 R トークに参加したことのある人にお尋ねします。

R-① トークに参加して、回復のヒントを得られましたか。

質問 S ワークにもトークにも参加したことのある人にお尋ねします。

S-① 当事者メンバーに登録して、不安が軽くなりましたか。

質問 T これまでの活動について感想を自由にお書きください。

(回答)

	全く改善しない		少し改善した		かなり改善した
P-①	1	2	3	4	5
(回答数)	4	1	2		
P-②	1	2	3	4	5
(回答数)	1	1	3	1	
P-③	1	2	3	4	5
(回答数)	2	3	1		
Q-①	1	2	3	4	5
(回答数)	1		3		1
Q-②	1	2	3	4	5
(回答数)		1	4		
R-①	1	2	3	4	5
(回答数)		2	1	1	
S-①	1	2	3	4	5
(回答数)			2	1	

やはりまだ十分な効果とまではいかないが、「すこし改善した」と評価する利用者が最も多かった。しかし自由記載の質問 T では「行ってみると、今日来てよかったと思えることが多い」「自分一人ではないという気持ちになれそう」といった肯定的な意見が多かった。ただ一方で「参加者がまだ少ない」「講演会や勉強会がある方がいい」といったニーズもあり、今後の対応していくべき課題を把握することが出来ました。

3 事業運営

3.1 資金の確保

SEED きょうとは現時点では任意団体であり、WAM 以外の助成を受けずに運営を続けています。他地域で同様の支援活動を展開するためには、次項のスタッフの確保に加えて、資金の確保が重要となってきます。SEED きょうとでは、「事業実績」にも記載したように、全ての活動を同時に開始したわけではなく、各活動を段階的に開始しました。

最初に「きょうと摂食障害家族教室」を実施し、その参加費を安定的な収入源として確保しました。さらに、家族教室の修了者で「らくの会（家族会）」を組織し、同会に入会した当事者家族から、寄付と言う形で一定の経済的支援を受けています。また SEED きょうと設立前から開催している講演会「拒食・過食を乗り越えて」の参加費も、年 1 回ですが貴重な収入源となっています。同講演会では、一般市民の参加者に寄付を募ったり、賛助会員としての入会を依頼したりすることで、資金援助をお願いしています。



しかしこのような活動は、多くが講師やスタッフのボランティアで成立しており、上記収入だけでは活動を継続的に実施していくことは困難です。SEED きょうとは平成 25 年度に WAM 助成を獲得できたことで、SEED テラスの開設を含め、その事業を大きく展開することができ、今後の活動の基盤を形成することができました。WAM 助成は基本的には単年度であるため、今後は継続的な助成を受けることが必須となります。

SEED きょうとは平成 26 年度についても WAM 助成への申請を計画していますが、同年度中には NPO 法人としての認可をうけ、平成 27 年度には京都市や京都府といった自治体から、障害者総合支援法に基づいた支援施設としての認可を受けて、安定した補助金を確保しながら運営を行っていくことを計画しています。

3.2 スタッフの確保

前項の資金の確保と同様に、活動のスタッフ（仲間）を集めることは、活動継続のためには非常に重要なポイントとなります。SEED きょうとはその理念として、多施設・多職種での地域支援を目指しているため、スタッフは一施設・一職種に偏ることなく、様々な施設、職種で形成されています。全国的にも、摂食障害の診療や支援に積極的に取り組んでいる医療福祉機関は少ないものの、全く摂食障害のケースに関わることがない施設は少ないと言えます。実際に、前述した教育・医療・福祉関係者向けの講演会では、摂食障害の対応方法について学びたいというニーズは多いが、そういった情報を提供してもらえぬ場が非常に少ないことが確認されています。そういった施設の中には、現状に問題を感じ、なんとかより良い摂食障害者支援を行いたいと考えている、熱意を持ったスタッフがいることと思われます。

SEED きょうとは、京都大学及び京都府立医科大学の附属病院の関係者が主導的な役割を果たして結成されましたが、講演会や口コミで上記のような熱意をもったスタッフに、SEED きょうとの存在が伝わり、発足当初の9名から着実に会員数が増加し、現在は理事5名・監事1名・会員14名、ボランティアスタッフ11名および賛助会員18名という規模にまで拡大しています。新聞等のマスコミに取り上げられたことや、ウェブサイトやソーシャルネットワークサービス(SNS)といったインターネットを通じた広報も、賛助会員、ボランティアスタッフへの申し込みにつながりました。

しかしながら、上記のような熱意を持ったスタッフだけでのボランティア運営には限界があり、出来るだけ速やかに正式な常勤又は非常勤スタッフを雇用し、運営を安定化していく必要があります。現在のスタッフは各々、他の施設での常勤職に就いている者がほとんどで、これは平日の活動頻度を増加していくことの妨げとなっています。家族教室や講演会などの教育的な活動を、新しいスタッフへの教育の場として同時に提供することで、今後必要となる常勤又は非常勤スタッフの育成につなげていくことを目論んでいます。

新しい支援施設を立ち上げるにあたって、事前に大きな資金提供がない場合には、スタッフの確保と資金の確保は両者が密接に関連していきます。非常に難しい問題ではありますが、同時に並行して解決を図っていくことが重要となります。



3.3 情報伝達・共有

【スタッフ間の情報伝達・共有】

メーリングリスト

現在のスタッフはほとんど全てが SEED きょうと以外の他の施設で常勤職に就いているため、スタッフ間の情報伝達・共有は容易ではありません。重要な決定事項については、年 4 回実施している定例会議で議決していますが、細かな事項については定例会議とは別に月に 1 回程度のミーティングを行って協議していました。しかしそれだけでは多くの日常的な事務連絡や提案等について検討することが出来ないため、google が無料で提供している「google グループ」というサービスを用い、下記の 4 種のメーリングリストを活用して、情報共有の効率化を図っていました。

- ・ kedscML : SEED きょうと会員全員での伝達・協議に使用
 - ・ seedcoreML : 理事を中心とした中核メンバーでの提案・協議に使用
 - ・ seedvolunteerML : ボランティアスタッフへの伝達・依頼に使用
- また、利用者への情報伝達においても下記のメーリングリストを使用しました。
- ・ workandtalkML : 当事者の会参加者への開催日程連絡に使用



グループ

カレンダー

決定したイベントの日程や、どの日程にどのスタッフが参加するのかなどについては、同じく google が提供している「google カレンダー」サービスを用いて情報共有しました。このカレンダーは SEED きょうとのウェブサイトにも組み込み、利用者の日程確認にも使えるように整備しました。



カレンダー

共有ドライブ

活動が多岐に渡るようになると、様々な会議の議事録や資料、各種チラシや案内など、多くの文書を保存・整理する必要があります。紙面での保管は確実ですが、必要時に内容をすぐに参照できない等の問題があります。そこで多くの文書を電子化し、「google ドライブ」というクラウドシステム上に集約し、会員が把握しているアカウントとパスワードを用いることで、どこからでも効率的に共有・閲覧できるように整備しました。



ドライブ

郵送

上記のインターネットを介したサービスはコストもほとんどかからず、迅速にコミュニケーションがはかれますが、それらが利用できない利用者や、重要な決定事項や案内などについては、その都度郵送で書面を送り、確実な情報伝達を行いました。

3.4 広報活動

【ウェブサイト】

SEED きょうとは設立とほぼ同時にウェブサイトを立ち上げました。近年、当事者はもちろんのこと、家族もインターネットを十分に利用できることが多く、ウェブサイトでの情報提供や広報は、コスト面からも非常に有利です。独自に管理・更新を行うには一定の知識が必要になるため、前項に挙げたインターネットを介した情報共有を行うためにも、スタッフにこうした知識が豊富な方がいると、運営がスムーズに行えるかと思えます。

ウェブサイトには設立の主旨や、活動予定のカレンダー、家族教室の申し込み案内、各種講演会の案内や関連団体へのリンクなどが配置されています。また、SEED きょうとに連絡を取りたい方のために、info.kedsc@gmail.com というメールアドレスも取得しており、このメールに連絡があれば、会員全員に速やかにその内容が伝わるようになっています。

また、このウェブサイトには一般に閲覧できる部分と、閲覧するにはアカウントとパスワードが必要な部分を設けています。後者の認証システムを用いて、らくの会（家族会）の会員には、会員のみが議事録や連絡事項を確認できる掲示板を提供したり、家族教室参加者には、出席できなかった会について、インターネット上で講義を視聴できるシステムを提供したりしています。

SEED きょうとウェブサイト：<http://kedsc.umin.jp/>



独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業

SEED きょうと ~Specialized Establishment for Eating Disorders in Kyoto~

家族教室、第6期の募集締切を4月5日(当日消印有効)まで延長しました！（詳細はこちら）

京都に摂食障害患者さんの支援施設を開設しました！

摂食障害を治療するために、まずは医療機関を受診することが必要です。

それだけで良くなる患者さんもちろんおられますが、入院と外来だけでは健康的な生活を維持することができない患者さんもおられます。やはり家族のサポートや福祉サービスの利用が欠かせません。

しかし京都には摂食障害の患者さんが通院しながら利用できる施設は少なく、ご家族も相談できるところが少ないために、「これでいいのだろうか？」と日々不安を感じながら患者さんと一緒に、病気に向き合っておられる方が多いでしょう。

当会は、そうした患者さんやご家族をサポートするために「**きょうと摂食障害家族教室**」などの学習会や講演会・シンポジウム「**拒食・過食を乗り越えて**」を行っています。また**家族会の活動**も開始しています。

そして「**当事者の会**」を発足し、開設した支援施設「**SEEDテラス**」にて「**トーク**」と「**ワーク**」という活動を開始しました。

【ソーシャルネットワークサービス(SNS)】

上記のウェブサイトは静的な情報を提供するのには有効ですが、日々更新が必要になるような、家族教室の応募状況や、活動の報告・広報等には、twitter や Facebook といった SNS も活用しています。SNS 提供した情報からボランティアスタッフが加入した例もあり、ウェブサイトと合わせて重要な広報手段になっています。現在 twitter での広報は休止していますが Facebook は下記のファンページで確認いただけます。

- ・ Facebook : <https://www.facebook.com/pages/SEED-きょうと/207058219426833>



【マスメディア】

当団体は WAM 助成開始前に全国紙に 1 回、地方紙に 2 回取り上げられており、助成開始後にも 3 回取り上げられています。新聞による広報効果は非常に大きく、報道直後には電話もしくはメールにて、家族会や当事者の会への参加についての問い合わせが、おおよそ十数件程度寄せられていました。

(WAM 助成開始前)

- ・ 平成 24 年 11 月 20 日 京都新聞
- ・ 平成 25 年 2 月 4 日 読売新聞
- ・ 平成 25 年 4 月 7 日 京都新聞

(WAM 助成開始後)

- ・ 平成 25 年 10 月 10 日 日本経済新聞
- ・ 平成 25 年 11 月 19 日 しんぶん赤旗
- ・ 平成 26 年 1 月 6 日 読売新聞

【Leaf of SEED】

SEED きょうとの活動に賛同し、年会費を納付していただいて賛助会員となられた方には、定期的に「Leaf of SEED」という名称の会報をお送りしています。実施している活動の内容や進展状況、いただいた資金をどのように使用しているかなどを報告しています。



Leaf of SEED

～No.1～

平成 25 年 10 月

発行：SEED きょうと（旧：京都摂食障害者支援施設設立準備委員会）

朝夕の冷え込みも少しずつ深まり、秋らしくなってきました。SEED きょうと賛助会員の皆様には、いつも温かく見守っていただき、心より御礼申し上げます。

当初よりお知らせしておりましたが、この度 SEED 通信を発行することになりました。おかげさまで、当事者の活動を今年の 4 月に開始し、8 月には本拠地を構えることができました。これからも SEED 事業をしっかりと継続していくためには、皆様のご支援が不可欠です。これからも活動の様子をお伝えしていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。会計報告も同封させていただきます。

～おしらせ～

助成金を受けています！

独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業 (WAM) の助成金を獲得しました。この資金を元に、大きく事業を展開する予定です。

本拠地が決まりました！

京都駅八条口の近くの一軒家をお借りすることが出来ました。通称“SEED テラス”。いろいろな人が集まって「SEED (種)」を育てていく場です。当事者の活動に加え、らくの会 (家族会) もここで行われます。スタッフも、意見交換がしやすくなりました。

**おたよりを発行します！**

通信名に「Leaf (葉)」ということばを入れました。手にしてくださるお一人おひとりが、SEED の成長を応援してくださるようにと願っています。

「拒食・過食を乗り越えて～Part6～」

毎年恒例の講演会の第 6 回が、11 月 4 日 (月・祝) ウィングス京都にて開催されます。今年のテーマは「当事者にできること」。

追手門学院大学心理学部教授 中村このゆ先生、NPO 法人あかりプロジェクト代表理事 村田いづ実さんにご講演頂きます (同封のチラシをご覧ください)。

SEED きょうとにおいても、当事者の活動を本格的に進めていきたいところです。「当事者の回復とは何か」、「持続的で発展的なグループを作るために必要なこと」など、いろんなヒントを頂けるのではないかとスタッフも楽しみにしています。



(昨年の様子)

※賛助会員の方は参加費が割引されます！！

1500 円→1000 円 (当日、受付でお名前をお願いします)

ボランティアさんが来てくれています！

SEED の活動は本務を抱えたスタッフだけでは継続していきません。現在 10 数名のボランティアさんが、活動のお手伝いをしてくれています。家族教室を見学するなど摂食障害について学びながら、「ワーク」など当事者の活動を支えていただいています。

4 今後の課題と計画

現在は当事者の会活動の対象を SEED きょうとのスタッフが主治医となっている方に限定していましたが、施設の設備も整ったため、次年度は京都近郊を中心に広く参加者を募集する予定です。利用したいというニーズは高いため、会員の増加を見込んでいます。

また NPO 法人化についてはスタッフで説明会に出向き、すでに NPO 法人化に耐えうる会則（定款）を作成し総会での議決も得ることができています。現在京都市に対しては障害者総合支援法の「生活訓練」の枠組みで助成を受けられるよう働きかけを行っています。

当団体は京都における摂食障害診療に深く携わる者で構成されています。スタッフの人脈と知名度も生かし、SEED きょうとを活動の核として、地域の大学病院、単科精神科病院、総合病院などの医療機関、精神保健福祉センターや保健所などの公的機関、作業所やデイ・ケアなどの福祉施設との連携を深め、地域の摂食障害支援体制を確立していきたいと考えています。